

ゲルハルト・オピッツ

ピアノ・リサイタル “展覧会の絵”

“Pictures at an Exhibition”

GERHARD OPPITZ Piano Recital

モーツァルト: 幻想曲 ハ短調 K475 Mozart: Fantasie in C minor, K475

モーツァルト: ピアノ・ソナタ 第14番 ハ短調 K457 Mozart: Piano Sonata in C minor, K457

ベートーヴェン: 《プロメテウスの創造物》の主題による15の変奏曲とフーガ op.35 (エロイカ変奏曲)

Beethoven: 15 Variations and Fugue on a theme from «The Creatures of Prometheus» op.35 (Eroica Variations)

ムソルグスキー: 組曲「展覧会の絵」 Mussorgsky: Pictures at an Exhibition



©HT/PCM

プログラムに寄せて

1784年に作曲されたモーツァルトのソナタK457から、1874年に作曲されたムソルグスキーの「展覧会の絵」まで、90年という時間を振り返るプログラムをお届けします。ベートーヴェンのエロイカ変奏曲と共に、偉大な作曲家たちの個性と独自の音楽言語を映し出す作品群です。

モーツァルトが悲哀で劇的なハ短調のソナタを完成させた数か月後に幻想曲K475が作曲され、両作品ともトラットナー夫人に献呈されました。モーツァルトはこの二曲を一冊にまとめて出版したかったようで、これらは二つで一つなのです。私も昔から一つの長大な作品のように感じていて、幻想曲はソナタK457への大切な序奏だと考えています。

1802年、ベートーヴェンは「コントラダンス」と「プロメテウスの創造物」の主題を用いて変奏曲とフーガを作曲しました。この「エロイカ変奏曲」という名は、1803年に交響曲第3番《英雄》(エロイカ)が作曲された後に付けられ、第4楽章の主題が変奏曲の冒

頭主題に使われています。ベートーヴェンの変奏曲の創作における天才的な力を示す作品です。

ムソルグスキーは友人であったロシア人芸術家のハルトマンが描いた絵から、この「展覧会の絵」へのインスピレーションを得ました。1873年にハルトマンが亡くなり、10の音楽を10の絵画に当てはめるように作曲し、類い稀な想像力と創作力を発揮しました。ムソルグスキーは展覧会で次々に絵を見て歩く様子を「プロムナード」で表したと友人に語っていますが、これを序曲のように見立て、プロムナードの変奏を入れながら、それぞれの絵画から得た印象を見事に表現しています。ラヴェルをはじめ、多くの作曲家がこの作品をオーケストラ用に編曲していますが、原曲のピアノ版が最もムソルグスキーの個性を現した真なる作品なのです。

—— ゲルハルト・オピッツ

2021 **12/14(火) 19:00開演(18:15開場) 東京オペラシティ コンサートホール**

Tuesday 14th December 2021, 18:15 Open, 19:00 Start / Tokyo Opera City Concert Hall (5-min walk from the East Exit from Keio New Line Hatsudai Station) 京王新線「初台駅」東口(直結) 徒歩5分

全席指定(消費税込) | S 6,500円 / A 5,500円 / B 4,500円 / 学生 3,000円 [9月21日(火) 一般発売]

※学生券は、パシフィック・コンサート・マネジメントのみの取扱い

お問合せ・お申込み | **PCM** パシフィック・コンサート・マネジメント 03-3552-3831 <http://www.pacific-concert.co.jp/>

プレイガイド | イープラス eplus.jp/

チケットぴあ pia.jp/ 0570-02-9999 [Pコード:202-073]

ローソンチケット l-tike.com/ 0570-000-407 [Lコード:35328]

東京オペラシティチケットセンター 03-5353-9999

主催:パシフィック・コンサート・マネジメント 後援:ドイツ連邦共和国大使館/一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)

※やむを得ない事情により、曲目等が変更になる場合がございますので、予めご了承ください。※就学前のお子様のご入場・ご同伴はご遠慮ください。※マスクの着用や検温等、感染予防対策へのご協力をお願い申し上げます。





ゲルハルト・オピッツ [ピアノ] Gerhard Oppitz, Piano

ドイツ・ピアノ界の正統派を代表する演奏家。古典から現代まで幅広いレパートリーを持ち、ベートーヴェンとブラームスに関しては、世界最高の演奏者の一人として確固たる地位を確立している。音楽解釈における楽派の流れは、師のヴィルヘルム・ケンプに繋がり、その源流はリストやベートーヴェンにまで直接遡る。

バイエルン州生まれ。パウル・バックに師事した後、ケンプと出会い教えを受けるようになる。自身の解釈との著しい相似性に感服したケンプの遺志により、オピッツは後継者として音楽的伝統を引き継ぐこととなった。

1977年アルトゥール・ルービンシュタイン・コンクールで優勝し、一躍世界的に脚光を浴びる。翌年には、名門ドイツ・グラモフォンより最初のレコードをリリース。これまでに、ウィーン・フィル、ベルリン・フィル、ミュンヘン・フィル等の著名オーケストラと、カルロ・マリア・ジュリーニ、ロリン・マゼール、リッカルド・ムーティ、ズービン・メータ、サー・コリン・デイヴィス、ヴォルフガング・サヴァリッシュ、ホルスト・シュタイン、サー・ネヴィル・マリナー、ヘルベルト・ブロムシュテット、ドミトリー・キタエンコ、ガリー・ベルティエニ等の指揮者と共演している。

これまでにリリースしたCDは数多く、BMG/RCAやヘンスラーからの、ブラームスのピアノ作品集、ブラームスのピアノ協奏曲集(C.デイヴィス/バイエルン放送響)、ベートーヴェンのピアノ協奏曲集(ヤノフスキ/ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管)、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全集、シューベルトのピアノ作品集等が好評を得る。

日本では1994年、NHKテレビのベートーヴェン・ソナタの演奏およびレッスンが爆発的人気と呼んだ。ベートーヴェン、シューベルト、シューマン&ブラームスの連続演奏会も好評を得る。親日家でもあり、日本で最も人気のあるピアニストの一人である。

“Pictures at an Exhibition”

GERHARD OPPITZ Piano Recital

© Concerto Winderstein

交通 アクセス

- 電車 ○京王新線(都営地下鉄新宿線乗り入れ)初台駅東口 徒歩5分以内
○都営地下鉄大江戸線 西新宿五丁目駅A2出口 徒歩約17分
- バス ○新宿駅西口よりバス約10分
京王バス(宿41)(宿45) 幡ヶ谷不動尊下車
○渋谷駅西口バスターミナルよりバス約20分
京王バス(渋63)(渋66)(渋61)
都営バス(渋66) 東京オペラシティ南下車
京王バス(渋64) 東京オペラシティ下車
- お車 ○山手通りと甲州街道の交差する初台交差点
※有料駐車場有り(入口:山手通り沿い/水道道路沿いアニメズ横)



シューベルト ピアノ作品集

ゲルハルト・オピッツ(ピアノ)
セッション録音: 2007年-2009年
ライツターデル(ノイマルクト/ドイツ)
KKC 5867/78(12CD) / ¥6,481+税
輸入盤・日本語帯・解説付

当セットには断章、断片のソナタ第8、10、11、12番を除くピアノ・ソナタ全曲を中心に、さすらい人幻想曲、楽興の時、4つの即興曲などの傑作、さらにはオピッツが厳選した小品を収録。聴衆から絶大な信頼を得ているオピッツならではのシューベルトを聴かせてくれます。



ベートーヴェン ピアノ・ソナタ全集

ゲルハルト・オピッツ(ピアノ)
セッション録音: 2004-2006年
ライツターデル(ノイマルクト/ドイツ)
KKC 5807/15(9CD) / ¥9,259+税
輸入盤・日本語帯・解説付

ベートーヴェン演奏の確固たる地位を確立しているオピッツ。ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全集の名盤とされている師ケンプとバックハウスをまさに引き継ぐ、近年のスタンダード的アルバムです。完璧なタッチ、確かな表現力、穏やかで真摯な演奏は、ストーリーにベートーヴェンの音楽が聴き手に浸透します。